

No. 5 NGO Bokk Jambaar ニュースレター

# BAOBAB

## エクスプレス



2018年8月発行

今号では、私たちのセネガル現地での活動に多大な協力をしてくださっている人情あふれるセネガル人、チャムさんを紹介します！！

私の名前はブー・チャムです。セネガルのルーガ州リンゲール県に住んでおり、1996年から教師として働いています。1996年から2005年まで、幼児クラスと5年生のクラスを教えていました。2005年10月に視学官になるための選考に受かり、首都にあるシーク・アンタ・ジョップ大学の教育・訓練科学技術学部にて4年間学習をする機会を得ました\*。2010年に大学を卒業後、教育・訓練視学官となり、10月からリンゲールにて勤務を始め、それ以来、



JICA ボランティアの活動に協力しています。（\*セネガルの特に地方では、高校卒業後、教師としての訓練を受けた者が小学校の先生として勤務しており、日本のように大学を卒業して小学校の先生になっている人はほとんどいません。）

Bokk Jambaar の活動を支援し始めた理由は、一緒に活動していたボランティア達が(帰国後も)様々な活動を通してセネガルの人々を支援したいと考え、活動、労働を行うことこそが、発展への道だと信じている人たちだからです。また、私は、困難、特に治療費が高い為に貧困が深刻化し、人々の経済活動を妨げるマラリアなどの病から抜け出すための支援を必要としている人々と Bokk Jambaar を結びつけ、適切な支援ができるように手助けをしています。

また、私はセネガル人の主食にもなる作物の大きなダメージを与える害虫や寄生虫などを駆除することができるニーム液を配布する Bokk Jambaar の「ニームプロジェクト」を応援しています。このプロジェクトにより、木や花、菜園が害虫から守られ、農作物生産者の生活が守られることを願っています。個人的には、

部屋に散布するための蚊除け液、蚊に刺されないように肌に塗るクリーム、蚊帳を浸したり蚊の成虫と幼虫を除去する液を作るために、ニームについてもっと知りたいと思っています。このような活動は、地方に住む人々、特に遊牧民のブル族などの肉を主食とする人々のマラリア対策に効果があり、それらの人たちがセネガルのこれからの発展に持続的、効果的に参加していける手助けになると信じています。

### チャムさんと働く！

チャムさんと一緒に仕事をしていた青年海外協力隊時代。最初の頃は、私がまず活動のアイデアを口頭で説明し、彼の反応を見て何をするか考えていました。しかし、ある時チャムさんに「自分の考えをまず文章にしておいで。文章がないと、やりたいことも分からないし、何もやっていないと一緒に。加えてコメントしようがない。」と言われました。要は形に残るものを作り、説明が出来て初めて議論が可能となり、同じ土俵で活動の計画を練ることが出来るのだと。あれから8年。今もチャムさんとの働き方は同じです。(土久岡真美)

## BOKK JAMBAAR 新メンバー紹介

私達 Bokk Jambaar は、今年から日本では「奇跡の木」と言われている「ニーム」を使い、防虫剤、マラリア予防などの効果検証実験を行います。今日は、現地での活動を行うプロジェクトメンバーの二人から自己紹介してもらいまーす！

### ■浮田真琴【セネガル名:アストゥ ソウ】

青年海外協力隊の家畜飼育隊員として活動中です。今飼っている動物は全部で24頭。セネガルでは家畜が鳴いていても、みんながそれをうるさい！と感じないところが好きです。Bokk サイコー！

### ■糸賀ちあき【セネガル名:アワ ディオップ】

青年海外協力隊OGで植林活動をしていました。セネガルでは、毎日お昼ごはんのお誘いを受け、色んな家庭でお呼ばれしていました。タダメシをもらっているのになぜかお礼を言われる…そんなセネガル人が好きです。



## 2017 活動報告

### 【日本での活動】

#### 2017.04.09 神戸三宮カトーイベント「セネガルってどんな国？」

[会場] 神戸三宮 アフリカエキスポチックリゾート

セネガルの家庭的なお菓子「ベニエ」を食べながら、セネガルの文化やその魅力についてお話をさせていただきました。セネガルに行ったことのない方も、興味を持っていただけてよかったです。



#### 2017. 05. 04-05 アースデイ神戸

[会場] 神戸 みなとのもり公園



ゴールデンウィークの二日間、お天気にも恵まれ、沢山の方にご来場いただき、楽しい時間を過ごすことができました。潮風が吹き、芝生が広がるみなとのもり公園はのんびり過ごすには最高ですよ。まだ行かれたことのない方はぜひ！！

#### 2017.07.19～08.12、09.05～10.16 セネガル雑貨展示販売

[会場] 神戸学生青年センター

今年は2回にわたりセネガル雑貨の展示販売をさせていただくことができました。センターを利用する国内外の多くの方々にセネガルのことを知っていただく機会となりました。



#### 2017.11.04 三木市金物祭 2016

[会場] 三木市市役所



今年も三木市国際交流協会様のご厚意で、兵庫県三木市にて開催される金物まつりに参加させていただきました。2017年は2日間で16万2千人の来場者があったそうです。三木市のビッグイベント、私たちが楽しませていただきました♪

## 2017.11.19 神戸グローバルチャリティーフェスティバル2016

[会場] 神戸海星女子学院高等学校

今回はアフリカンフードとしてセネガル料理のヤツサ・プレ(鶏の玉ねぎソース煮)と、スーダン料理のファラフェル(ヒヨコ豆のコロッケ。中東でもよく食べられます)売れ行き良好! またセネガル雑貨やアフリカ布ポックジャバールオリジナル商品も販売させていただきました。



## 2017.12.08 大阪キリスト教社会館での学習会

[会場] 門真市社会福祉法人大阪キリスト教社会館

門真市で40年以上、地域の人々のための医療・介護事業を実践されている大阪キリスト教社会館でセネガルのお話をさせていただきました。日本にもある貧困という問題に向き合い、弱者の立場に立った医療・介護を提供されている所長の尾崎医師からは、貧困は世界共通の課題であるが、地域にいる人々がその問題に向き合い、皆が協力して活動を続けることが大事だというお言葉をいただきました。対象となる人々とその地域を巻き込むということ、これからの活動でも実践していきたいと思います。

## 2017.12.14~12.23 セネガル写真展

[会場] 大阪中央区 平岡珈琲店

大正10年創業の老舗珈琲店のギャラリーでセネガルの写真を展示させていただきました。

展示の予約をして1年待ちの開催という人気のギャラリーです。100年続く珈琲の味と、店主の平岡さんの笑顔には、とっても癒されます。



## 2018.2.04-05 大阪ワン・ワールド・フェスティバル2017

[会場] 扇町公園・関テレスクエア・大阪市北区民センター

今年も西日本最大の国際交流イベント、大阪ワン・ワールド・フェスティバルに参加しました。来場者の方や他団体の方々とも交流ができ、セネガルの話も興味深く聞いていただくことができました。



## 【セネガルでの活動】

人々が健康に暮らす社会とは、単に体が健康であるというだけでなく、就労の機会を得てお金を稼ぎ、それにより衣食住が満たされ、子どもたちは学校に通い、生活に必要な教育を受けることができ、それらの知識を活かし社会で活躍する(=働く)機会となる、このように異なる分野の活動が循環して健康な社会がつけられていきます。そこで Bokk Jambaar は医療・教育・生産業の三本柱で包括的に地域の問題に取り組むプロジェクトの実施のため、今年度はルーガ州リンゲール県を中心に各分野のニーズや、保健分野で問題となるマラリアについての地域住民の意識調査(アンケート)を実施しました。

### 1. 健康な地域社会づくりプロジェクト基礎調査

平成 29 年 12 月 29 日～平成 30 年 1 月 4 日まで、セネガルを訪問しプロジェクトの基礎調査を実施しました。ルーガ州リンゲール県における7つの村落部診療所、ダーラ市およびリンゲール市の教育委員会、リンゲール森林局の職員を対象に各分野の現状と課題、解決策などについて話し合いました。

まず村の診療所を訪問し看護師や助産師、事務職員から話を聞きました。



処置室の医療器具はどれもこの程度。

もありました。自治体から年間の必要経費の給付はありますが、貧しい村落地域では医療費が払えない人も多く無償で診療を提供する場合がありますので、給付金だけでは運営資金が不足し、数か月も給料未払いで労働していると言う看護師さんもありました。また診療所は僻地に点在しますが、さら

Bokk Jambaar ではこれまで毎年、村落部診療所への医薬品の寄付を行ってきており、医薬品が不足しがちな現状は把握していましたが、実際に行ってみると建物はあるものの医療器具が不十分だったり、またトイレや水道などの設備が整っておらず、作りかけのまま放置されているもの



洗面台の使えない診療所も珍しくない。

に奥地に住む人々は近くの診療所まで10～20km以上もの道のりを、日よけもついていない馬車に乗り、数時間かけて移動しなければなりません。妊婦さんが馬車の上で出産してしまうことや、場合によってはそれが新生児死亡の原因になるケースもあるそうです。また診療所に辿り着いても出産が2～3件重なったりすると、床にシートを敷いて対応することもあり、様々な要因で出産には大きなリスクを抱えることになります。このように僻地では診療所の不十分な医療体制や設備だけでなく、診療所までの移動距離や



移動手段となる馬車。日よけなどはない。



病室のベッドも足らず床で休んでいます。



このように狭い分娩室で同時帯に2～3件対応することも。

手段などのインフラ環境が原因で対処が遅れ、重症化あるいは死に至ることもあります。また村落部では呼吸器・消化器系の感染症や性感染症、マラリアなどの患者さんが多く、リンゲール県では僻地に住んでいる人の大半はプル族という遊牧民族で、乾季になれば牛や羊に与える草を求めて遊牧生活が始まります。それゆえに保健教育を受ける機会がなく、病気の予防や対処について正しい知識を持っていない人々も多いということでした。

他には子どもたちのドロップアウトや学習環境の問題、修業の問題、環境面では砂漠化など、人々が直面している様々な現状について教え



遊牧で移動中のプル族の人々。



この～木、何の木、ニームの木～

のあちらこちらに生育する「ニーム」という木のもつ様々な効果を利用し、地域の課題解決の可能性を見出すという「ニームプロジェクト」です。ニュースレターの冒頭でブー・チャム氏の話にもありましたが、地域にある資源を利用し、新たな可能性を見出していくことが持続可能な開発に繋がっていくのではないかと信じています。自分たちの暮らしが改善されていくように願うセネガルの人々と、私たち Bokk Jambaar が力を合わせて健康な社会づくりを目指し、踏み出した第一歩の調査となりました。

## 2. 村落部地域住民のマラリア意識調査

先行して行った調査結果から、私たちは村落部の健康問題のひとつであるマラリアに注目しました。セネガルを含むサハラ以南アフリカは悪性度の高い熱帯熱マラリアの流行地帯です。現在セネガルでは、国の保健省が『マラリアをゼロに！』というスローガンを掲げ、全国レベルで蚊帳の配布や殺虫剤の散布、妊産婦への予防薬や治療の無料化などを実施し、ある程度の効果も出しているようです。しかし、実際にその対策がどこまで普及しているのか、住民たちがどこまでマラリア予防のアクションがとれているのか、知っているのかなど、細部に関するデータはなく、まず現状を把握するために地域住民の意識調査を実施しました。合計 8 か所の村と町の住民合計 135 人に対し、質問項目を設定のうえ対面で聞き取りを行う半構造的インタビュー形式で行いました。結果から 9 割近くの家庭に蚊帳が配布されているものの、それ以外のマラリア対策（殺虫剤を使う、蚊よけスプレーを使う、ボウフラが育たない環境をつくるなど）は出ていない家庭が多いことが分かりました。医療機関へのアクセスも悪い村落部では、小さな子どもがマラリアで死亡するケースもあり、人々のライフスタイルに応じた予防方法を考える必要性を感じました。

ていただきました。しかしまず健康な体があることで、仕事や勉強など次の活動に繋がります。そこで、この健康に対する問題を切り口にリンゲール地域の発展を目指したプロジェクトを展開できないだろうか……。そして今、私たちが取り組もうとしているのは、セネガルの

### 3. セネガル村落部での医薬品配布プロジェクト

セネガルでは市ごとに比較的設備の整った市立病院があり、その病院の管轄する地域の村落部には Post de santé (ポスト・ド・サンテ) と呼ばれる診療所と、各 Post de santé が管理するより小さな規模の Case de santé (カーズ・ド・サンテ) と呼ばれる診療所があり、中心部から離れた小さな集落の住民たちが医療にアクセスできる体制が作られています。各診療所は自治体から運営のための給付金をもらっていますが、村落部は貧しくて医療費が払えない住人も多く、無償で医療を提供しているために財政状況の厳しい診療所がほとんどです。

Bokk Jambaar では毎年、診療所への医薬品の寄付を行っていますが、今年度は、先に報告をした「健康な地域社会づくりプロジェクト基礎調査」で対象とした診療所を中心に合計 8 か所の診療所に医薬品の寄付をしました。

#### 【実施内容】



ダーク市立病院の薬局。看護師さんが、自分の診療所に必要な薬を選んでいきます。

各診療所の看護師がダーク市立病院に出向き、Bokk Jambaar のメンバーおよびブー・チャム氏立ち合いのもと、抗生剤、抗寄生虫薬、抗マalaria薬、解熱鎮痛剤、ビタミン剤、点滴注射液など各々が必要とする医薬品を購入しました。診療所の規模の大きさにより1件

につき約 10,000～30,000 円分の医薬品を購入しました。管轄村民数の多い診療所では 30,000 円で約 1 週間分の医薬品が購入できます。診療所の方々は、この薬をぜひとも経済的に弱い立場の方々のために使いたいと言ってくださいました。



30,000 円分の薬。約一週間分になるそうです。



# mangi fii

私達ボックスジャンバルは、新しく「mangi fii(マンギフィ)」というブランドを立ち上げました。

「マンギフィ」とは、セネガルのあいさつのひとつ  
「私はここにいるよ」と元気を伝える言葉です。  
その言葉をブランド名にしました。

「ここにいるよ」

ただそれだけで充分。

ただ「ここにいる」だけで、1人1人が大切な存在  
であること。



国籍や性別や人種やあらゆる枠にとらわれる事なく、決めつける事もなく、1人1人の心が自由であるように、私達のブランドもまるで空気のように自由なブランドでありたいと思っています。

アフリカの感性と日本の感性が混ざり合っとうまれる「マンギフィ」は、時にそつと元気をくれる日本的な柔らかさと、時に思いっきり元気をくれるアフリカの力強さを感じていただけるように、セネガルや日本で物作りに取り組んでいます。「マンギフィ」は、スツとなじむ空気のような存在でありたいと思っています。



「私はここにいるよ」

1人1人が輝く世界へ。

mangi fii 商品開発・デザイナー  
守屋美代子

Bokk Jambaar では、活動を応援していただける方を募集しています。

1. Bokk Jambaar の会員として参加する

賛助会員 年間費 3,000 円

ニュースレターや活動報告をお届けいたします。

本会員 年間費 5,000 円

ニュースレターをお送りするとともに、総会や活動にもご参加いただけます。

2. 寄付をして応援する

下記口座までお振り込みください。連絡先を教えてくださいましたら、活動報告をさせていただきます。

3. ボランティアとして応援する

Bokk Jambaar が参加・主催するイベントなどにてお手伝いをしている方を募集しております。下記連絡先までご連絡ください。

### 振込口座

三井住友銀行 千林支店

普通 1745982

ボックジャンバール 代表 オンバダ香織(おんばだ かおり)

### 連絡先

Bokk Jambaar 事務局

〒535-0021 大阪府大阪市旭区新森4-3-12-504

電話: 080-8522-8412(代表 オンバダ)

Email: [contact@bokk-jambaar.org](mailto:contact@bokk-jambaar.org)

HP: <http://www.bokk-jambaar.org>

## 2017 年度会計報告

(2017 年 4 月～2018 年 3 月まで)

(単位:円)

科目	金額
<b>I. 収入の部</b>	<b>1,099,954</b>
1. 受取会費	29,000
2. 受取寄付金	462,216
3. 助成金	351,795
4. 事業収益	178,076
物品販売	139,126
食品販売	38,950
5. 2016年度プロジェクト仮払返金	78,865
6. 銀行利息	2
<b>II. 支出の部</b>	<b>571,877</b>
i 事業費	420,086
1. イベント経費	132,866
イベント参加費	30,200
食材・消耗品費	8,916
セネガル雑貨等購入費	61,250
セネガル雑貨輸送費	32,500
2. セネガル活動費	287,220
交通費	69,411
宿泊費	12,500
医薬品購入費	156,250
消耗品	42,899
通信費	1,660
海外送金手数料	4,500
ii 管理費	82,841
広報費	25,817
通信費	21,289
消耗品	30,109
振込手数料	648
為替差損	4,978
iii. その他	68,950
寄付	38,950
諸会費	30,000
<b>III. 正味財産の部</b>	
当期正味財産増減額	528,077
前期繰越正味財産額	196,809
次期繰越正味財産額	724,886



セネガルの民族語のひとつであるウォロフ語で「Bokk」は仲間、「Jambaar」は頑張っている人のことを指して言います。

アフリカと日本の距離を超え、同じ意志を持ち目標に向かって頑張る仲間たちの繋がりが広がっていくこと、そして Bokk Jambaar はその皆の頑張りを一つの大きな力にしていく場でありたいと考えています。